2024-4-10

安楽死について

3年1組27番　藤本 美紗姫
3年2組21番　藤上 望宇
3年3組5番　上村 美優
3年3組25番　秦 和叶

Keyword:「死ぬ権利」「葛藤」「イメージ」

1. 研究の背景

私たちがこの課題について研究する動機は3つある。1つ目は日本には「生きる権利」があるのに「死ぬ権利」がないことに疑問を持ったからだ。2つ目は、植物状態の人たちをテレビで見たことがあることによる。3つ目は、安楽死を許している国は現在3つあるが、その許されている国に行き、安楽死することは禁止されていないことについて疑問に思ったからだ。私たちはこれらの疑問について知りたいと思った。私たちは日本では走れなくなった競走馬に薬を打ち、心臓を止めることが許されているのに人間では許されていない理由や、手や足、思考でさえも止まってしまっているのに心臓だけが動いている人たちは生きていて意味があるのか、心臓は動いていても何も考えられない状態、それに回復することのない体にお金を使い治療することは家族にとって負担ではないのだろうか。日本と海外の現状を比較してみて、日本は遅れをとっていると感じた。海外は自らの死を望んでいる人たちを許可し、日本など安楽死が許されていない国はその望みを尊重できていないのではないかと思った。

2. 先行研究の検討

安楽死を選択する理由は人それぞれで沢山あるが、その中でも多いのが、病気になってしまって生きることが苦痛に感じたりすることがあり安楽死を選択することだ。そして、2015年の一番多い自殺理由が健康問題である(厚生労働省, 2015)。安楽死を選ぶことが出来ず、自ら苦しい思いをして亡くなってしまう人が多いということである。それなのに、なぜ日本で安楽死が認められていないのか。私は、病気になってしんどい思いや痛い思いをするならば、楽に最後を迎えた方が、家族にとっても、本人にとっても精神的に苦しくないと思った。そして、安楽死が日本で許される制度になって死に対して苦しんでいる人が少なくなったらいいと思った。安楽死を選択するまでに、本人たちにしか分からない、精神的ストレスや葛藤があるのだと本を読んで思った。

3. 独自研究

私たちは安楽死についてのアンケートの協力を実施した。質問内容は「安楽死について知っているか」「安楽死に対するイメージ」「安楽死に対して持っているイメージはプラスかマイナスか」「日本で安楽死は許されるべきか」の4項目であった。国際高校の生徒113人にアンケートを実施したところ、安楽死について知っているかという質問に109人がはいと答え、4人がいいえという答えになり、約90%の人が安楽死について知っていた。そして「はい」と答えた人に、安楽死に対するイメージも聞いた。「いいイメージはない」「これ以上治らない人は病気の人が死を選ぶもの」「苦しみながら死ぬよりマシ」「楽に死ねる」「悲しい」「結局しんどい」「高額」などのイメージがあった。ほとんどがいいイメージを持っているのに対して悪いイメージを持つ人もいる。

次に「安楽死に対して持っているイメージはプラスかマイナスか」について聞いた。113人中プラスのイメージを持っている人が81人、マイナスのイメージを持っている人が32人であった。プラスのイメージを持っている人たちは「苦しんでいる状況よりかは楽になれる」「無理して生きなくていい」「安楽死という選択肢があることで心が救われる」「助けられる」などの意見があった。一方、マイナスのイメージを持っている人たちは「殺される」「薬を利用して自殺する人がいそう」「人の手によって失くされるものだから」「医療行為だとしても人を殺しているのと同じ」などの意見があった。

最後に「日本で安楽死は許されるべきか」という質問をした。はいと答えた人が68人、いいえと答えた人が14人、わからないと答えた人が31人だった。そう思う理由を聞いてみたところ、はいと答えた人は「他の国で許されているから」「安楽死は悪いことではない」「希望した死に方でいい」「自分の意見が大切」「望む人には許していいと思う」という前向きな意見があった。そしていいえと答えた人は「悪用する人がいそう」「同意すればできてしまう」「安楽死する前に解決できるようにならないといけない」「どんな方法でも死ぬのは良くない」「死者数を増やす行為でありメリットはない、ただでさえ死者数が多い日本で許さ、れればさらに多くなる」などの意見があった。そして最後にわからないという選択肢を作ったところ「病気ゆえに生きるのが苦しい人の気持ちを尊重してあげたい気もするし、大切な命を大事にしなければと言う思いもある」「いいところも悪いところもある、どの立場でも辛い」という意見があった。

アンケートの結果から安楽死に対して良いイメージを持っている人の割合は8割に対して、日本で認められるかという質問で賛成した割合は7割であり、わからないと答えた割合が反対の割合より多かった。このことから、安楽死についての詳しい知識やメリットやデメリットが認知されていないためこのような結果になったと考え、私たちはもっとたくさんの人に知識を広め病気で苦しんでいる患者に少しでも多くの選択肢を与えなければならないと思った。

4. 結論と今後の課題

私たちは、日本で安楽死が許されるために活動しているわけではない。そして、安楽死が人々から軽い気持ちで扱われていかないように、安楽死についてをたくさんの人に知っていって欲しいと考えている。そして、沢山の人々に安楽死について知ってもらうことでこの活動がマイナスに進むことはないと考えている。

主な参考文献

宮下洋一（2019）安楽死を遂げた日本人 小学館.
厚生労働省（2012）平成24年版高齢社会白書
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/24pdf_index.html（参照日：2022/6/25）

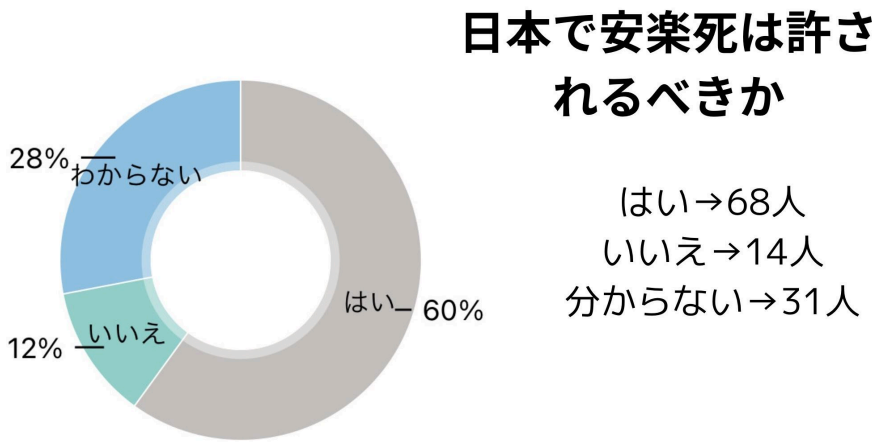

図. アンケート結果の一部